



血液製剤について

毎年7月1日～31日は
「愛の血液助け合い運動」
月間です！

ホーム・ホスピス中尾クリニック
中尾 勘一郎 先生

皆さんの、献血はどのように利用されているか、ご存じですか？いわゆる、輸血（赤血球輸血）だけでなく、血液製剤として利用されています。血液製剤とは、皆さんの献血によって得られた血液を原料として、輸血や病気の治療を目的に加工された医薬品です。種類は「赤血球製剤」「血小板製剤」「新鮮凍結血漿」「血漿分画製剤」に分けられます。

「赤血球製剤」は、外傷や病気による貧血・手術時などに用いられます。使用に際して適合試験を行います。適合試験とは、血液型検査（ABO血液型、Rh抗原）、不規則抗体スクリーニングという検査を行い、血液が適合するか否かを検査します。輸血時および終了後も継続的に副作用がないか観察を行います。

「血小板製剤」は、病気などで血小板が少ない時に用いられます。適合試験を行い使用しますが、使用するま

で振とう保存する必要があります。振とうしないと血小板の損傷が起こり、輸血効果が低下するからです。

「新鮮凍結血漿」は、血液を凝固する因子の不足や大量輸血の時に用います。凍結した状態ですので、血液型の適合を確認後、融解して使用します。

「血漿分画製剤」は、アルブミン、免疫グロブリン、血液凝固因子などのタンパク質を分離取り出したものです。それぞれ病気の状態に応じて用います。

十分に、日本赤十字社と各医療機関でも検査・管理・使用しておりますが、輸血には免疫などによる副作用やウイルスなどに感染する危険性があり得ますので、ほかに代替する治療法などがなく、その有効性が危険性を上回ると判断された場合に実施しています（輸血療法の実施に関する指針）。このように、さまざまな医療の場面で、大切に利用されています。



図書館・健康センター複合施設

ホンテラッセ長与

honterrasse nagayo

通信 Vol.15



整備の詳細
長与町ホームページ

ホンテラッセ長与の機能紹介③

問 政策企画課新図書館等建設係 ☎095-801-5661

長与町で建設中の新施設「ホンテラッセ長与」は、図書館と健康センター、交流の場がひとつになった、新しいまちの拠点です。今回は、交流エリアについて紹介します。

交流エリアは、施設を訪れる人々が思い思いに過ごしなが、緩やかにつながりを生み出す空間です。下記のスペースが整備されることで、人々の交流が生まれ、あらゆる世代の方のための居場所となり、幸福度を高められることを目指します。地域の交流促進のための活動であれば、営利目的での利用も歓迎します。

プラザ

施設のエントランス空間で、読書や歓談、待合など思い思いに滞在できる場所です。



イメージ



建設現場の様子

ミーティングルーム

少人数の会議などに利用できるスペースです。

コモソラウンジ

一般開放により、くつろぎや談話のための空間として利用されるほか、交流促進のための行事、展示などさまざまな活動に対応できる空間です。

おやこのあそびば

未就学児と保護者のための専用スペースです。床や遊具は安全性に配慮しており、保護者の方が見守りながら安心して遊べます。



イメージ



クッキングルーム

栄養指導、料理教室、親子での食育体験などに利用できる調理スペースです。